

地区別復興構想  
**御 祓 地 区**

## 目次

地区別復興構想の策定にあたって -----	2
七尾市戦略的復興プランとの関連性-----	3
<b>1 御祓地区の現況の整理-----</b>	<b>4</b>
<b>2 地域の課題 -----</b>	<b>8</b>
<b>3 復興まちづくりの方針-----</b>	<b>10</b>
<b>4 復興まちづくりに向けて考えられる施策 -----</b>	<b>12</b>

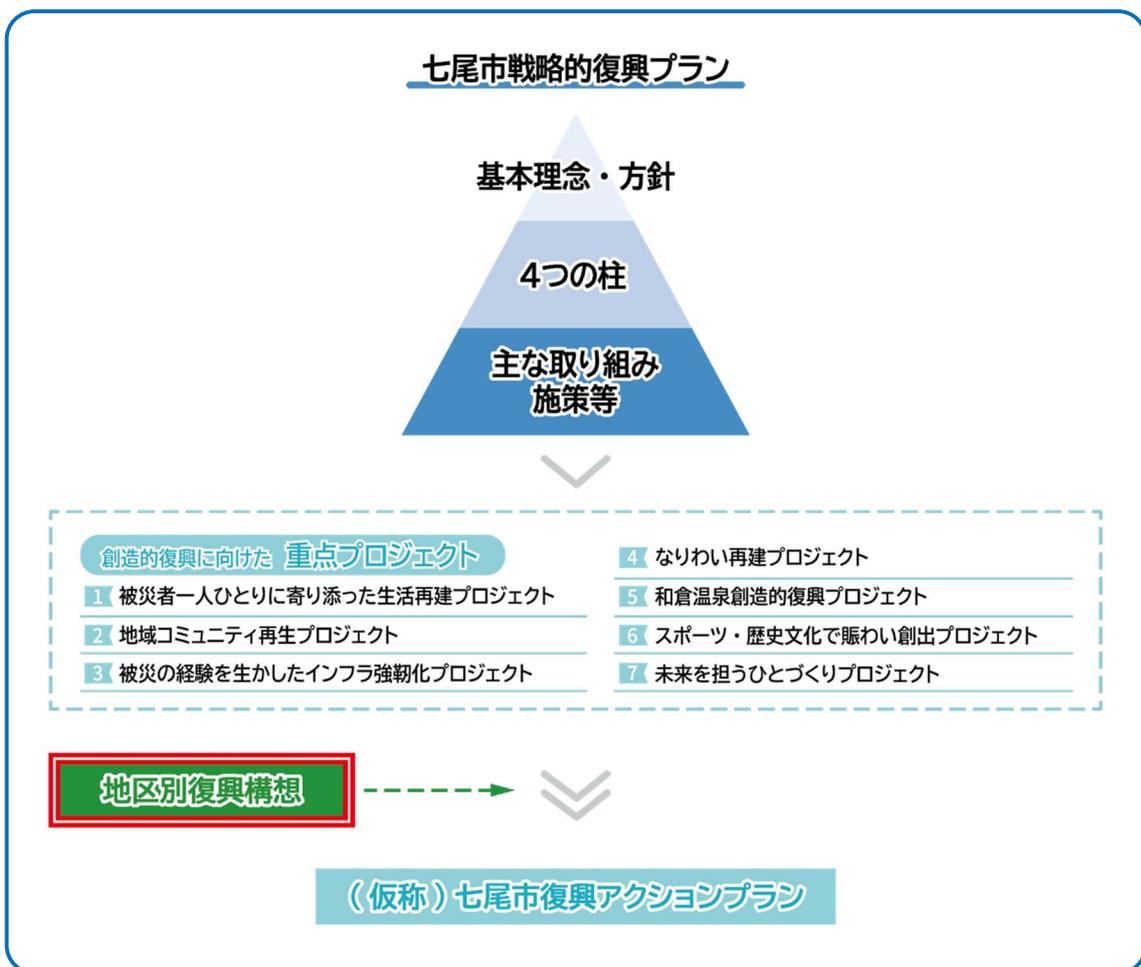
この構想は、復興に向けた課題と方向性を整理したものであり、今後七尾市として事業化の検討を行います。

## 地区別復興構想の策定にあたって

令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた本市では、震災からの復興に向け、さらに魅力あるまちへ発展していくため、令和7年2月に「七尾市戦略的復興プラン」を策定しました。

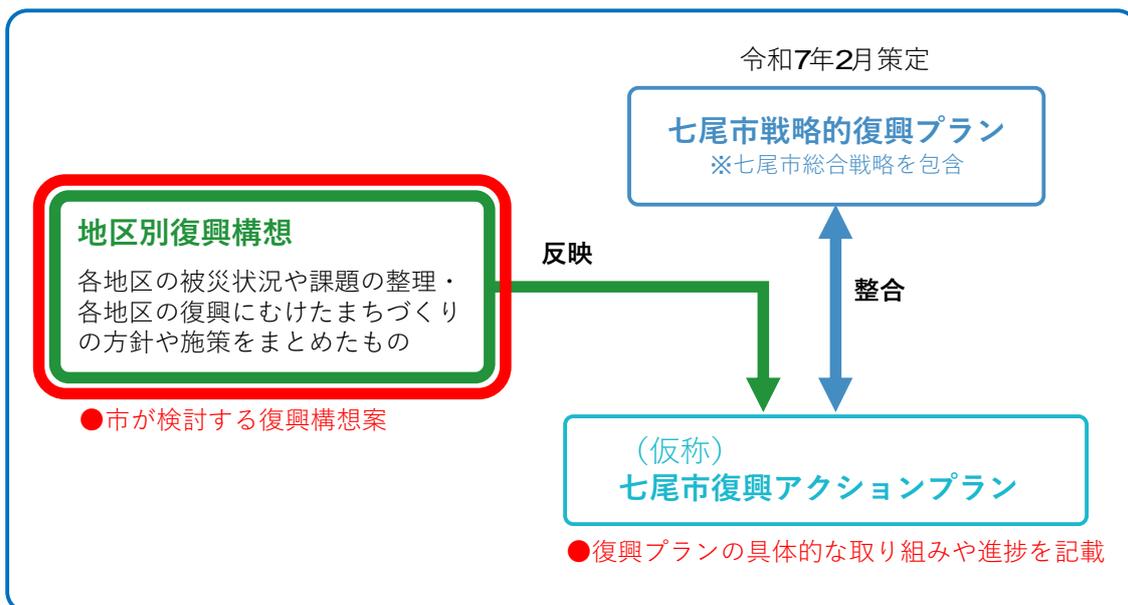
復興のまちづくりの将来像として「すべての暮らしと営みに幸せを～みんなの笑顔が輝くまち～」を掲げて、市民一人ひとりが主体となり、市民と行政が力を結集し、創造的かつ戦略的復興に向けて多くの取組みを実施する必要があります。

これらの取組みの着実な推進に向けて、市内全15地区の復興に向けた課題と方向性を整理した「地区別復興構想」を策定しました。本構想をもとに地域の復興への取組みを進めていきます。



## 七尾市戦略的復興プランとの関連性

市内の各地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。



今年度は、地区単位での復興を推進するため、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺いました。



# 1 御祓地区の現況の整理

## (1) 被災状況

七尾湾南側に面した地域に位置し、令和7年10月末時点で人口2,846人の地区である。

七尾町の一部であったが、昭和14年に1町5村（東湊村、矢田郷村、徳田村、西湊村、石崎村、和倉町の一部）、平成16年に3町（田鶴浜町、中島町、能登島町）との合併により七尾市となる。

令和6年能登半島地震により、被災した住家の約37%が半壊以上の被害を受けた。また公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みである。七尾港周辺では液状化による土砂噴射や舗装亀裂などの被害を受けた。そのほかの被害は以下のとおりである。

住宅	被災した住家の約37%が半壊以上の被害
公共施設	壁の損傷や設備の故障などの被害 (七尾駅前にぎわい館(バリア)、フォーラム七尾、御祓地区コミュニティセンター、七尾市立図書館)
道路	歩車道に段差やクラックなど多数の被害
護岸・河川	液状化の影響により、七尾港で車両のアクセス経路が寸断
公園・緑地	小丸山城址公園の施設で壁の剥離や傾きなどの被害
その他	斜面崩壊及び宅地造成被害は確認されていない

## (2) 各種災害におけるリスク

津波災害のリスクが高く、県道 1 号七尾輪島線北側の広い範囲で浸水し、桜町・昭和町周辺で、最大 1.6m 程度の浸水深が想定されている。

洪水については、臨港線周辺や御祓川周辺で床下浸水に相当する浸水深 50cm 未満の浸水が想定されている。

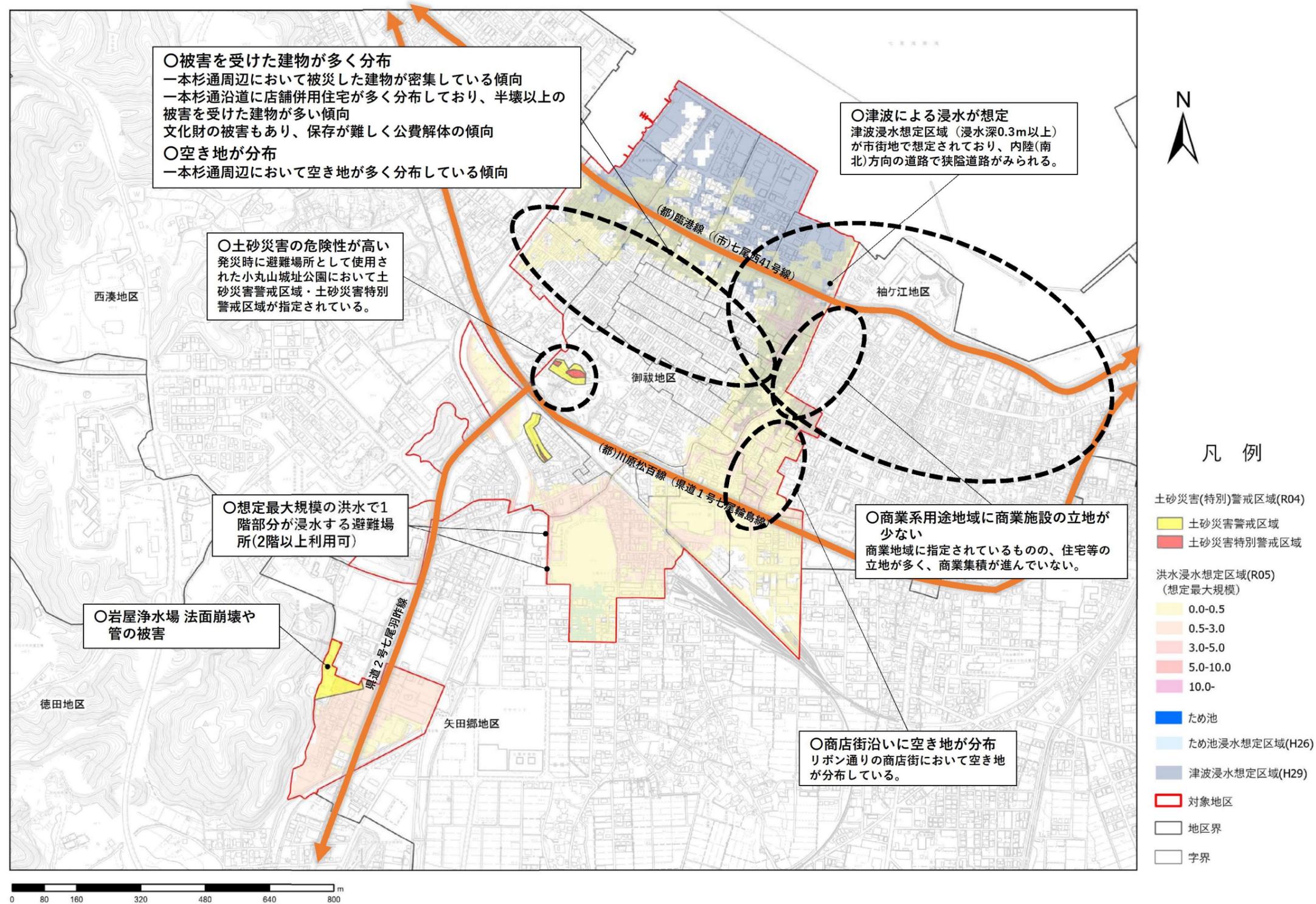
土砂災害の危険性が高いエリアが、小丸山城址公園の斜面地においてみられ、土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されている。

一方、指定緊急避難場所は、御祓地区で 14 施設が指定され、その内 4 施設が指定避難所となっている。この内、御祓地区コミュニティセンターは最優先で開設する緊急避難場所（防災拠点）に位置付けられているが、大規模な火事の際は活用が想定されていない。

その他にも、以下のような災害リスクがある。

津波	地区北側の一部で津波による浸水深 30cm以上の浸水リスクが想定 桜町・昭和町周辺では、最大 1.6m 程度の津波による浸水リスクが想定
洪水	浸水深 50cm未満の浸水リスクが想定(リスク自体は低い)
土砂災害	小丸山城址公園の斜面地や周辺、藤橋町の山側において土砂災害リスクが想定
その他	地区全体で液状化の可能性が想定 特に、海側と河川周辺で液状化の可能性が高い

## 現況分析 | 御祓地区



地区別復興構想  
御祓地区



## 2 地域の課題

### (1) 住宅 | 木造家屋の密集と被災

県道1号七尾輪島線の北側は歴史的な建物が多く立地する市街地であり、地震によって多くが被害を受けた。こうした地域では、今後空き地や空き家の増加が予想されるため、空き地、空き家の管理活用が求められている。

### (2) くらし | 生活利便施設の立地、住民の自発的なまちづくりへの参画

中心市街地であり、七尾駅前にぎわい館（パトリア）など利便性の高い施設が地区内に分布しているため、暮らしやすい環境が整備されている。一方、一本杉通り商店街では、以前から空き店舗・空き家が存在しており、地震を受けて、これらの増加が加速することが想定される。このため、一本杉通商店街を中心に、空き店舗、空き家を利用した商店街の活性化が求められ、地域住民の自発的なまちづくりへの参画が必要とされている。

### (3) 仕事 | 中心市街地における商店やと七尾港などの被災

中心市街地には古くからの飲食店や商店、事業所などが立地しており、多くが地震によって被害を受けたため、途絶えさせることのないよう生業の再建・継承への支援を行い、商店街の復旧と地域住民の働く場所の確保が必要な状況である。また、能登地域の物流拠点である七尾港においても液状化など、被害が生じている。

### (4) インフラ・防災 | 津波・土砂災害などによるリスク

津波による浸水のリスクが想定されている。また、小丸山城址公園の斜面地が土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されており、人命や住宅の被害リスクが想定される。さらに、能登半島地震において地盤沈下が生じており、こうした地域では高潮浸水のリスクも懸念される。

### (5) 交通 | 七尾駅における交通結節機能の充実、広域交通網の適切な維持・管理

地区南部に七尾駅が立地し、鉄道や路線バス、コミュニティバスと連結する重要な交通結節点となっており、機能強化が求められる。

地区内において、東西に県道1号七尾輪島線や臨港線が整備され、国道159号、国道160号などつながり、和倉温泉方面や七尾インターチェンジ方面へのアクセスが容易な交通体系が形成されており、こうした地区の骨格となる幹線道路の機能を災害時においても発揮できるように整備していくことが必要である。



## 3 復興まちづくりの方針

令和7年3月に地域が主体となり「御祓地区災害復興プラン」を策定した。このプランに位置付けたリーディングプロジェクトなどを踏まえ、地域と行政が連携して取組みを推進していくことが重要である。

### 復興まちづくりの基本方針

#### (1) 住宅 | 居住の考え方

被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの現状を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組む。特に復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保が重要である。

さらに、今後増えることが想定される空き家・空き地などを有効に活用し、七尾市におけるまちなか居住を促進する住宅地形成に取り組む。

#### (2) 暮らし | 生活利便性向上の考え方

地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要である。公共施設や食料品店、病院など、生活するうえで必要な施設の適正な配置を検討し、生活利便性の向上を目指す。

また、まちなかへの飲食店などの立地を促すことで、地区住民の豊かな暮らしを支える。

地域に過度な負担がかからない持続可能なまちづくりに向けて、地域通貨を活用したまちづくりへの住民参加の仕組みや組織づくりを検討する。

#### (3) 仕事 | 産業の考え方

震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧及び継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要である。

また、空き家・空き店舗などの有効活用や歴史的な建造物などの地域資源を活用しながら地区内の回遊性を高める取組みを検討する。

#### (4) インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方

将来の大規模な自然災害の備えとして、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保が重要な課題である。

建物が多く分布している市街地においては、住宅などの耐震化や改修を促進し、安全に住み続けられる居住環境を構築する。また、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に指定されたエリアでは震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組む。

#### (5) 交通 | 交通の考え方

災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組む。

## 4 復興まちづくりに向けて考えられる施策

令和7年2月に策定した「七尾市戦略的復興プラン」（計画期間：令和6～10年度）は、市全体の復興に向けた方向性を示したものである。そのため本構想は地区単位での復興を推進するものであり、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施した。

意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺った。

### 意見交換会の概要

実施回	実施日	意見交換の内容
第1回	2025/8/6	重要と考える復興に向けた取組みについて



地域づくり協議会との意見交換会の様子

地域からの意見のなかで、優先順位の高い取組みを、「復興まちづくりに向けて考えられる施策」として以下に記載する。これらの施策と次頁の地図に整理された意見については、関係各課と協議のうえ、事業化に向けた検討を行う。

## 復興まちづくりに向けて考えられる施策

### (1) まちづくり | 復興公営住宅などの施設整備【住宅】

震災後の公費解体により空き地が多く発生しており、こうした土地に対して小規模な土地区画整理事業などを実施することにより、まとまった土地を生み出し、復興公営住宅などの施設を整備することが求められている。

### (2) 暮らし | 生活利便性の充実【暮らし】

七尾市の中心市街地であり、市民の交流や生活利便性を充実することによりまちの活性化を図っていくことが重要である。そのため、チャレンジショップを併設した交流施設の整備やショッピングセンターの誘致が求められている。

さらに、七尾市における「モデル地区」に位置づけ、地域通貨の先進的導入などの取組を展開することが求められている。

### (3) 観光 | 観光・観光 PR や地域連携の強化【仕事】

地域の誇りである祭りをはじめとする伝統文化を継承するため、祭りの体験や展示を行う施設の整備が求められている。

地区内は小丸山城の城下町としての歴史が感じられ、歴史的な建物も多く残っている。このような地域資源を活用した観光交流の活性化に向けて、町並みを保全する景観整備や空き地を利用したポケットパークの整備、地域イベントの開催やモデルコースの設定、アプリなどの情報発信により、観光 PR や地域連携の強化が求められている。

### (4) 防災 | 防災施設の整備【インフラ・防災】

小丸山城址公園の防災公園としての整備や、指定避難所の防災機能強化を検討するとともに、地域における防災・減災対策を進める必要がある。

### (5) 交通 | 代替道路網の整備などによる輸送の多重化【交通】

災害時に機能する緊急輸送道路の確保や代替道路網の整備などにより、輸送経路の複線化や、災害に強い道路網を形成し、災害に強いまちづくりが求められている。

地区別意見整理図 | 御祓地区

※この地図は、意見交換会の中で  
出た意見を記載したものです。



地区別復興構想  
御祓地区